

問3. 活動する上で工夫している事は？

◆道下さん

早朝の巡視で駆除できなかった場合は、時間をずらして巡視しています。また、仲間との情報交換や町民からの出没情報も参考にしています。

◆佐藤さん

主に一人で活動しているため、シカに先に気づかれないよう行動しています。

◆笹井さん

シカのえさ場や風向きなどを考えて巡視しています。

問4. 活動する中で大変だった時は？

◆道下さん

住宅の近くでは銃を使えないので山のほうへ追い込みながら駆除していますが、クマやシカは体重が重く、特にクマは100kg以上もあるので山から搬出するのが大変です。

一人での搬出が難しい場合は、仲間や役場職員4〜5人で搬出しますが、それでも時間がかかります。

また、搬出した後の解体処理も一人だと大変です。

◆笹井さん

冬場の積雪の中、山を歩きながら巡視するのが大変です。



▲箱わなで捕獲したヒグマ



▲ヒグマ捕獲用の箱わな

問5. 活動する中でやりがいを感じる時は？

◆道下さん

町民からの依頼で駆除した時、依頼をした町民から「ありがとう」と声をかけられた時です。

◆佐藤さん

駆除した時にお礼を言われた時です。

問6. 活動中での印象深いエピソードは？

◆道下さん

ある日、親子でいたシカの親のみを駆除しました。後日同じ場所に行くと、その時の子シカが自分に寄り添ってきました。寂しかったのだと思い抱きかかえましたが、とてもつらかったです。

◆笹井さん

春先、エサを食べていなかったのかフラフラと歩いているシカがいました。そのシカが崖から落ちるのを見た時です。

問7. 今後の課題や目標についてどのように考えているか？

◆道下さん

駆除した時に搬出から解体までを手伝ってくれる人が必要です。一人では搬出だけで4時間位かかることもあります。

また、ハンターは現在3人しかいません。佐藤さんと笹井さんは経験年数が短いため、わなの設置やシカやクマの追跡方法などを教えていかなければならないのですが、教える時間がなかなか取れていない状況です。

さらに、将来を考えると若い担い手を見つけないと成りません。自分たちだけでは厳しいため、町全体で良い人材を見つけることに取り組みたいです。

◆佐藤さん

一人でも多くの人に免許を取得してもらいたいです。また、自分たちも全力で活動していきたいです。

◆笹井さん

技術を向上させ、駆除頭数を増やしていきたいです。